

みんなのアクセシビリティ評価ツール miChecker 導入手順書

2020年2月13日

本書の目的

本書は「みんなのアクセシビリティ評価ツール miChecker」の導入手順を説明するものです。

目次

1. みんなのアクセシビリティ評価ツール miChecker (エムアイチェッカー)	2
2. miChecker の導入.....	2
2.1 PC 環境の確認.....	2
2.2 miChecker のダウンロードと導入.....	2
2.3 miChecker の実行.....	4
3. Java 実行環境の確認・導入.....	5
3.1 Java 実行環境の確認.....	5
3.2 Java 実行環境の導入.....	6
(参考) 最新の miChecker の入手について	10

1. みんなのアクセシビリティ評価ツール miChecker（エムアイチェッカー）

「みんなのアクセシビリティ評価ツール miChecker」（以下、miChecker）は、JIS X 8341-3:2016（高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第3部：ウェブコンテンツ）に基づくウェブアクセシビリティ対応の取組を支援するために、総務省が開発し、提供するアクセシビリティ評価ツールです。本書は、miChecker の導入手順を紹介します。

2. miChecker の導入

2.1 PC 環境の確認

miChecker は、以下の環境で利用頂くことができます。

OS :	Windows 8.1, Windows 10
ブラウザ :	Internet Explorer 11
メモリ :	1GB 以上（2GB 以上を推奨）
ハードディスク空き容量 :	250MB 以上
Java 実行環境 :	Java 32bit 版 Version 8

2.2 miChecker のダウンロードと導入

miChecker は、総務省のウェブサイトで公開されている圧縮ファイルをダウンロードし、展開することで使用できます。以下では、Windows 10 の環境の場合を例に、ダウンロードと導入の手順を説明します。

- A) 総務省が提供する miChecker のダウンロードページ（下記）にアクセスし、miChecker ダウンロードのためのリンクを選択してください。（検索サイトを開き、「miChecker」のキーワードで検索することでも miChecker のダウンロードページに移動することが出来ます。）

miChecker ダウンロードページ :

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/b_free/michecker.html

3.miCheckerのダウンロード

総務省は、アクセシブルなウェブの普及を目的としてmiCheckerを無償公開しています。法令や公序良俗に違反しない様、留意の上でmiCheckerをご利用ください。なお、miCheckerに関する権利および免責事項などについては、miCheckerに付属の「3_利用条件.pdf」をご参照ください。

以下のリンクをクリックすると、ダウンロードが開始されます。

[miChecker_v2\(zip形式圧縮ファイル、約51MB\)](#)

（同時にダウンロードできる人数に制約があります。もしダウンロードがうまくいかない場合は、しばらく時間を置いてから再度ダウンロードしてみてください。）

- B) 操作を選択するダイアログが表示されたら、【名前を付けて保存】を選択してください。「名前をつけて保存」のダイアログが表示されたら、ファイルを保存する先を指定して【保存(S)】を実行してください。



図 1. miChecker のダウンロードファイルを保存する

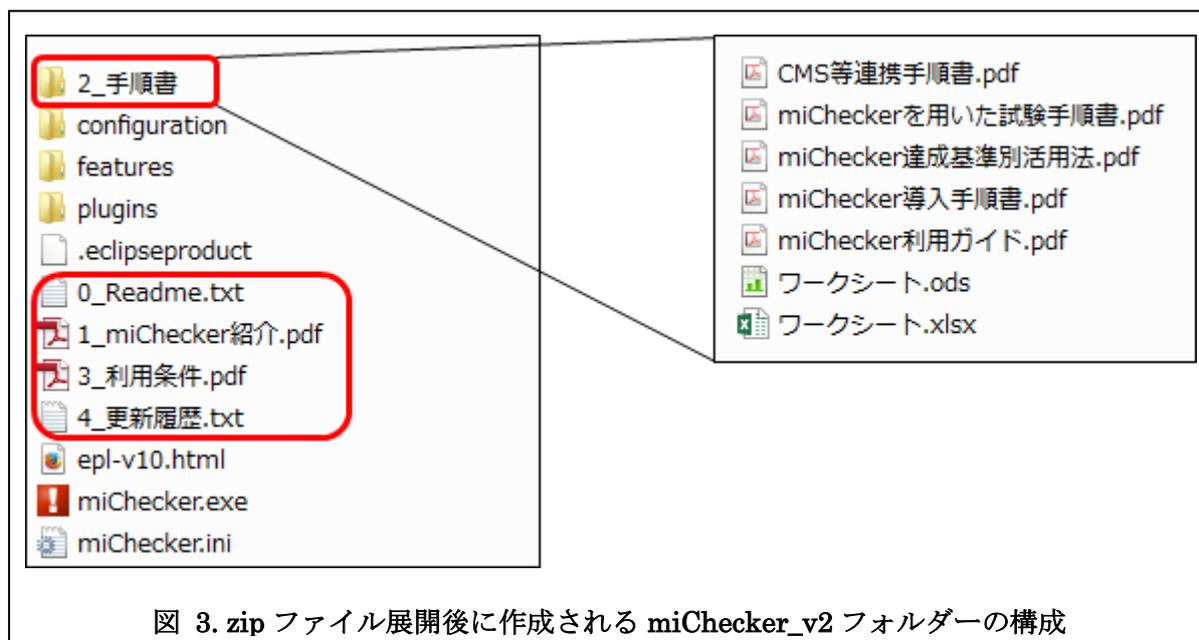
- C) ダウンロードした zip ファイルを選択し、右クリック（もしくは Shift+F10）で表示したメニューから【すべて展開 (T) ...】を選択し「展開ウィザード」を開始してください。
(注： ダウンロードしたファイルをダブルクリックするのではなく、必ずメニューを用いるようにしてください。)
- D) 「圧縮 (ZIP 形式) フォルダの展開」ダイアログが表示されたら、miChecker を保存するフォルダを指定して【展開 (E)】を選択してください。



図 2. 圧縮フォルダを展開

E) 展開が終了したら、展開先に「miChecker_v2」というフォルダーが作成されたことを確認してください。「miChecker_v2」フォルダー内には、miCheckerの概要説明、利用条件などをまとめた「0_Readme.txt」、「1_miChecker紹介.pdf」、「3_利用条件.pdf」、「4_更新履歴.txt」の4つの文書があります。また、「2_手順書」フォルダーには「miChecker利用ガイド」、「miCheckerを用いた試験手順書」、「miChecker達成基準別活用法」、「ワークシート」、「CMS等連携手順書」の各文書が収められています。miChecker本体は「miChecker.exe」という実行ファイルです。

(注： OSの設定によっては拡張子が表示されない場合があります)



2.3 miChecker の実行

以上で miChecker の導入は完了です。miChecker を実行する際は、miChecker が展開されたフォルダーの中にある miChecker を実行します。(注： OS の設定によっては、「miChecker.exe」と拡張子と共に表示されています。)



「miChecker 利用ガイド」などの付属文書を参照しながら miChecker をご活用ください。

注： miChecker を利用するためには Java 32bit 版 Version 8 の実行環境が必要となります。次節の手順を参考に Java 実行環境の確認・導入を行ってください。

3. Java 実行環境の確認・導入

miChecker を利用するためには Java 32bit 版 Version 8 の実行環境が必要です。対象の Java 実行環境が存在しない場合、Java 32bit 版 Version 8 の導入を行います。

注：Oracle 社から提供されている Java 32bit 版 Version 8 の実行環境については 2019 年 1 月で商用利用向けの無償アップデートが終了となりました（参照：下記 URL）。
（ <https://www.oracle.com/technetwork/jp/articles/java/ja-topics/jdk-release-mo-del-4487660-ja.html> ）

3.1 Java 実行環境の確認

環境によっては既に Java 実行環境がインストールされている場合があります。まず、コマンドプロンプトを利用して Java のインストール状況を確認します。

(ア) コマンドプロンプトの起動

Windows のスタートメニュー／スタートボタンからコマンドプロンプトを起動します。

（Windows ログキーを押しながら R キーを押して「ファイル名を指定して実行」ダイアログを表示し、「名前」と記載された入力欄に「cmd」と入力した上で「OK」を選択することでもコマンドプロンプトを起動することができます。）

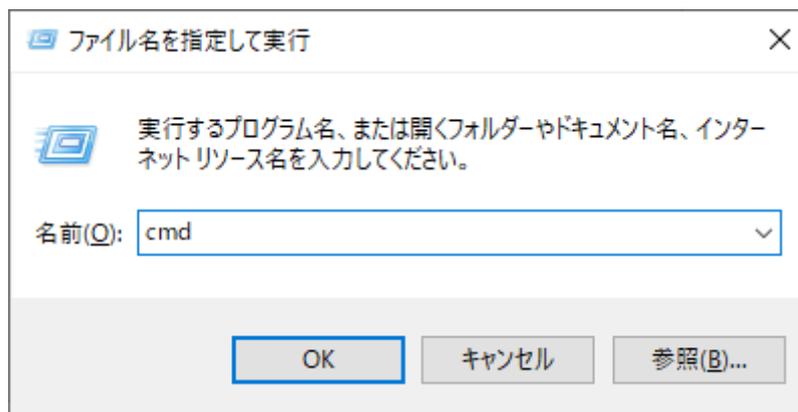


図 5. 「ファイル名を指定して実行」ダイアログからコマンドプロンプトを起動する

(イ) コマンドプロンプトを用いた確認

コマンドプロンプトに次のように入力し「ENTER キー」を押してください。

```
java -d32 -version
```

```
C:¥>java -d32 -version
java version "1.8.0_192"
Java(TM) SE Runtime Environment (build 1.8.0_192-b12)
Java HotSpot(TM) Client VM (build 25.192-b12, mixed mode, sharing)
```

図 6 Java がインストールされているかを確認

Java がインストールされていない場合には次のようなメッセージが表示されます。

'java' は、内部コマンドまたは外部コマンド、操作可能なプログラムまたはバッチファイルとして認識されていません。

Java がインストールされている場合には次のような表示が出ます(表示は Java のバージョンなどにより異なります)。

```
openjdk version "1.8.0_242"  
OpenJDK Runtime Environment (build 1.8.0_242-b08)  
Eclipse OpenJ9 VM (build openj9-0.18.1, JRE 1.8.0 Windows 8.1 x86-32-Bit 20200122_432  
(JIT enabled, AOT enabled)  
OpenJ9      - 51a5857d2  
OMR        - 7a1b0239a  
JCL        - 8cf8a30581 based on jdk8u242-b08)
```

「version」欄が、「1.8」で始まっている場合、Java の Version が「8」であることを意味しています。Java Version 8 が導入されていることが確認できた場合には、「2.3 miChecker の実行」の手順に沿って miChecker を実行することが可能です。

3.2 Java 実行環境の導入

3.1 の手順で対象の Java 実行環境がインストールされていないことが確認された場合、Java 実行環境の導入を行ってください。ここでは、AdoptOpenJDK および Oracle 社の提供する Java 実行環境を用いる場合の手順を紹介します。Java 実行環境の利用に際しては、事前にそれぞれのライセンス条件等をご確認上でご利用ください。

● AdoptOpenJDK Java 実行環境

- ライセンス条件：<https://adoptopenjdk.net/about.html>
- オープンソースソフトウェアとして無償でダウンロード可能
- 自動更新は実施されないため、定期的に最新の Java 実行環境を導入する必要があります

● Oracle 社 Java 実行環境

- ライセンス条件に関する FAQ：
<https://www.oracle.com/technetwork/jp/java/javase/overview/oracle-jdk-faqs-5488066-ja.html>
- 商用利用向けの無償アップデートは 2019 年 1 月で終了

(ア) AdoptOpenJDK の提供する Java 実行環境の導入

① Java 実行環境のダウンロード

AdoptOpenJDK が提供する Java 実行環境 (JRE) のダウンロードページ (下記) にアクセスし、Operating System として「Windows」、Architecture として「X86」(32bit 版) を選択した上で、JRE (Java 実行環境) のダウンロードのためのリンク「zip」を選択してください。

AdoptOpenJDK ダウンロードページ :

<https://adoptopenjdk.net/releases.html?variant=openjdk8&jvmVariant=openj9>

Latest release

Build archive Nightly builds

1. Choose a Version

- OpenJDK 8 (LTS)
- OpenJDK 9
- OpenJDK 10
- OpenJDK 11 (LTS)
- OpenJDK 12
- OpenJDK 13 (Latest)

2. Choose a JVM

- HotSpot
- OpenJ9

What is Eclipse OpenJ9?
[Find out here](#)

[All Release Notes](#)

Operating System: Architecture:

jdk8u242-b08_openj9-0.18.1 AdoptOpenJDK LTS				Checksum (SHA256) JDK - 99 MB <input type="button" value="↓ .msi"/>
				Checksum (SHA256) JDK - 116 MB <input type="button" value="↓ .zip"/>
	Windows 2008r2 or later	x86	Normal	Checksum (SHA256) JRE - 36 MB <input type="button" value="↓ .msi"/>
				Checksum (SHA256) JRE - 44 MB <input type="button" value="↓ .zip"/>

図 7 JRE の zip ファイルをダウンロード

② Java 実行環境の展開

次に、ダウンロードした zip ファイルを選択し、右クリック（もしくは Shift+F10）で表示したメニューから【すべて展開 (T) ...】を選択し「展開ウィザード」を開始します。「圧縮 (ZIP 形式) フォルダの展開」ダイアログが表示されたら、Java 実行環境を一時保存するフォルダを指定して【展開 (E)】を選択して zip ファイルを展開します。

展開されたフォルダ内に、Java 実行環境が入ったフォルダ（「jdk8」で始まり「jre」で終わる名前のフォルダ）が存在することを確認します。

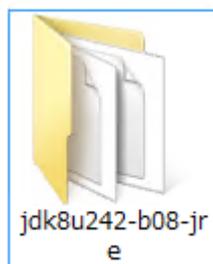


図 8 Java 実行環境が入ったフォルダの例

③ Java 実行環境を miChecker から利用するための設定

②で確認した Java 実行環境の入ったフォルダ（「jdk8」で始まり「jre」で終わる名前のフォルダ）を右クリック（もしくは Shift+F10）して表示したメニューから【名前の変更 (M)】を選択し、フォルダの名前を「jre」に変更します。次に、「jre」フォルダを「2.2 miChecker のダウンロードと導入」で導入した miChecker のフォルダ（「miChecker_v2」など）に移動します。

以前に導入した Java 実行環境を更新する場合には、miChecker のフォルダ内の古い「jre」フォルダを削除した後、新しい「jre」フォルダを移動してください。

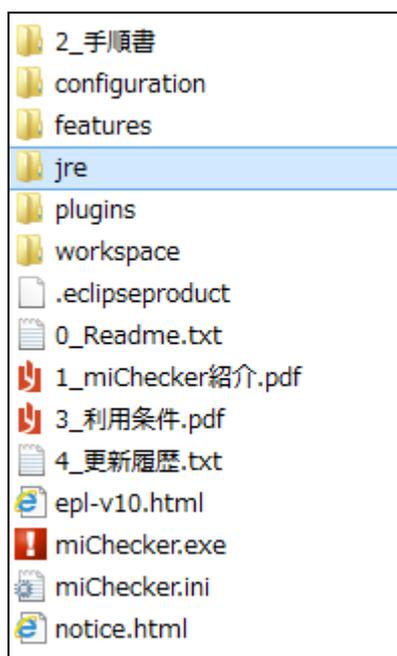


図 9 「miChecker_v2」フォルダーに「jre」フォルダーを移動

以上で Java 実行環境を miChecker から利用するための設定は終了です。

(イ) Oracle 社の提供する Java 実行環境の導入

以下に Oracle 社の提供する Java 実行環境のダウンロードと導入手順が示されたウェブページを紹介いたします。下記ページ内の導入手順に沿って Java 32bit 版 Version 8 の Java 実行環境（JRE）のインストールを行ってください。

Java ダウンロードとインストール手順のサイト

https://www.java.com/ja/download/help/windows_manual_download.xml#download

注： Oracle 社から提供されている Java 32bit 版 Version 8 の実行環境については 2019 年 1 月で商用利用向けの無償アップデートが終了しています。（参照：下記 URL）。

（ <https://www.oracle.com/technetwork/jp/articles/java/ja-topics/jdk-release-model-4487660-ja.html> ）

(参考) 最新の miChecker の入手について

JIS X 8341-3:2016 関連文書の更新や miChecker の機能拡張などに伴って、miChecker が更新される場合があります。総務省ホームページ(http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/b_free/b_free02.html)にアクセスし、最新の miChecker を入手するようにしてください。